

# BIMONTHLY REPORT

バイマンスリーレポート  
No.  
**387** SENDAI KEIZAI DOYUKAI  
2017.12.14

## 【特集】

最後の戦国武将といわれているけれど

# 実は政治家、 経営者としても 一流だった 伊達政宗

## 【巻頭言】

今に息づく伊達な街づくり  
政宗の450年を振りかえり仙台の魅力を  
全国へ発信

株式会社河北新報社 代表取締役社長／一力 雅彦

## 例会ダイジェスト

明日を考え未来を語る

子どもの貧困 ～経済格差が招く悲劇を防ぐために～  
M&Aを利用したみちのりグループの取り組み  
女川町 復興の現状と人づくり・まちづくり

## 会員インタビュー

仙台勝山館 代表取締役社長／伊澤 泰平



# 今に息づく伊達な街づくり 政宗の450年を振りかえり 仙台の魅力为全国へ発信

**伊**達政宗生誕450年に当たる本年は、改めて政宗の功績を振り返るよい機会になったと思います。政宗が生まれ育った米沢市の旧地名をみると、大町や立町、柳町など仙台市にある御譜代町が随所にあつて驚かされます。仙台の街づくりの原型がすでに米沢にあることがよく分かります。杜の都仙台の礎を築いたのも、政宗が奨励した武家屋敷の屋敷林に負うところが大きいと言われてます。さらには、海の向こうまで見据えた慶長遣欧使節の派遣も、時代を先取りする政宗の壮大な視点ならではと言えましょう。

東日本大震災からまもなく7年になろうとしています。鉄道などのインフラは着実に復興していますが、まだ約8万人の方が避難生活をされており、心の復興やコミュニティの再生は道半ばです。国の支援期間が終了する2020年も間近に迫っています。行政には限界があるので、経済界として、長期的かつ持続的な支援を考えていかなければならないと思います。

今年、福島市と米沢市を40分で結ぶ高速道路が開通し、来年には山形市まで延伸の予定です。これで、3県の県庁所在地に米沢を加えた4市を結ぶ大環状線が完成します。物流にとっても、インバウンドを考える上でも波及効果が期待できます。訪日アジア観光客の東北の認知度は12%と、たいへん低いのですが、交通網の整備で東北各県が連携を密にして積極的な取り組みをすれば、伸びる余地がたくさんあると考えています。

東京圏への若者の人口流出に歯止めをかけることも喫緊の課題です。2014年に政府は「2020年に、東京への流入超過をゼロにする」という閣議決定をしましたが、現状では一極集中がますます加速しています。首都圏の高齢化が進み地方からのマンパワーの流出がより深刻になる前に、なんとか手を打たなければなりません。

仙台経済同友会では、地域の魅力の発信と、人材の育成に力をいれていきたいと考えています。広島経済同友会では大学と連携し、学生の職場体験に積極的に取り組んでいます。こうした取り組みも参考にし、具体的なアクションプランを立て、若い人材の地元定着を図っていききたいと思います。

仙台は、政宗が育んだ伊達な文化が息づく街、杜の都でもあり、東北大学をはじめ多くの若者が学ぶ学都、交通の要衝、さまざまな可能性のある都市です。まずは、地元の人たちがその価値を認め、外に向かって大いに発信していきましょう。仙台経済同友会には、それぞれに成功体験や苦境を乗り越えた体験をもつ約300人のメンバーがいます。東北の未来に向けて、夢や希望を語り合う場になれば、地元の若者にも希望を与えることになるのではないのでしょうか。

来年は、札幌、仙台、広島、福岡の地方中核都市による経済同友会の四極円卓会議が仙台で開催されます。東北各県はもとより、問題を共有する各都市との連携も深めて、将来のビジョンに向けて活動する経済団体として、より一層の存在感を示していきたいと考えております。

## 例会ダイジェスト

On regular meeting

# 「明日を考え未来を語る」

仙台経済同友会では会員の啓発活動として、毎回多彩な講師を招いて例会を開催しています。新時代を生きる経済人として有用な先進の知識や話題など、各例会のエッセンスをぎゅっと凝縮して発信するページが「例会ダイジェスト」です。ぜひお役立てください。

9月・10月・11月の月例会では、  
下記の方々にご登壇いただきました。

講演内容(抄録)を仙台経済同友会の会員専用ページに掲載しております。

9月

### 子どもの貧困 ～経済格差が招く 悲劇を防ぐために～

日本は7人に1人の子どもが貧困状態で、OECD加盟国の中で最悪の水準です。今や子どもの貧困は福祉ではなく社会課題。貧困状態が見えないといわれる日本の子どもの現状と、その解消に取り組むキッズドアの活動についてお話しいただきました。



#### ●講師紹介

特定非営利活動法人キッズドア  
理事長

渡辺 由美子氏

千葉大学出身。

大手百貨店、出版社を経て、フリーランスのマーケティングプランナーとして活躍。

2000年から2001年にかけて、配偶者の転勤に伴い家族で一年間イギリスに移住し、「社会全体で子どもを育てる」ことを体験する。

準備期間を経て、2007年任意団体キッズドアを立ち上げ、2009年内閣府の認証を受けて特定非営利活動法人キッズドアを設立。日本の全ての子どもが夢と希望を持てる社会を目指し、活動を広げている。

10月

### M&Aを利用した みちのりグループの 取り組み

地方の交通事業会社を、M&Aでグループに引き入れたみちのりホールディングス。過疎化による利用者減などで経営困難に陥ったこれらの企業を、人員整理や路線の廃止をすることなくV字回復にした、数々の取り組みをお話しいただきました。



#### ●講師紹介

株式会社みちのりホールディングス  
代表取締役

松本 順氏

宮城県出身。

1984年上智大学法学部卒。

ゼネラルモーターズ系投資会社等を経て、2003年産業再生機構執行役員に就任し、九州産業交通等の事業再生案件を統括。機構解散後、2007年に「経営共創基盤」、2008年に交通・観光事業の持株会社「みちのりホールディングス」を設立し現在に至る。東北・関東で、交通事業会社7社を経営するほか、東北の観光復興に関する提言活動に取り組んでいる。

11月

### 女川町 復興の現状と 人づくり・まちづくり

東日本大震災において町の8割を失い、人口減少率も全国でワースト1位となった宮城県女川町。NPO法人を立ち上げ、そんな町が抱える課題を抽出しながら、公と民がそれぞれの役割を果たしながら連携することで、課題の解決を図る姿を紹介します。



#### ●講師紹介

特定非営利活動法人 アスヘノキボウ  
代表理事

小松 洋介氏

1982年生まれ。宮城県仙台市出身。

2005年株式会社リクルート入社。情報誌の広告営業、リーダー業務を行う。東日本大震災から半年後の2011年9月に退職。

退職後、東日本大震災による宮城県内全ての被災地の行政・各種団体・企業・住民のところに飛び込み続け、「これから必要な支援は何か?」ヒアリングを続ける。

2011年10月女川町と出会い、2011年12月、女川町の全産業界が集まった民間団体「女川町復興連絡協議会」内の戦略室に入室。トレーラーハウス宿泊村「エルファロ」の企画立案から実現まで、現地の旅館事業者と共に行動。

その他にも、複数新規事業・プロジェクトの立ち上げ、そして立ち上げ後の安定運営まで支援を行う。

# 最後の戦国武将といわれているけれど 実は政治家、経営者としても一流 だった伊達政宗

2017年(平成29)は伊達政宗生誕450年記念としてたくさんのイベントが行われ、伊達政宗についてもさまざまな角度から語られました。あまり語られることのない優れた政治家、経営者としての側面について仙台市博物館主幹学芸普及室長菅野正道さんにうかがいました。



かの まさみち  
**菅野 正道さん** 仙台市博物館主幹  
兼 学芸普及室長

### Profile

東北大学大学院修士課程修了後仙台市役所に入り、仙台市博物館市史編さん室に配属され、仙台市史編さん事業に従事する。「仙台市史通史編3 近世1」「せんだい歴史の窓」など著書、論文多数。  
問/仙台市博物館 ☎022-225-3074

## 伊達政宗の普請



一部の写真提供:宮城県観光課

## 仙台城築城のかたわら、仙台北下のインフラ整備に尽力した後半生

**Q** 伊達政宗は仙台北下の町づくりに積極的に関わったということですが、どんなグランドデザインを考えていたのでしょうか？

戦国武将というイメージが強い伊達政宗ですが、年表を見てもお分かりのように、戦国武将として各地で戦っていたのは10代後半から30代半ばまでの20年たらず。35歳で仙台城を築城してから、以後30年以上は仙台北下の街づくりや藩の経営安定に力を入れています。まさに、経営者、都市計画家ともいえる活躍ぶりでした。

政宗は1600年(慶長5)に**仙台城(A)**の築城を始め、翌年建設途中の仙台城に移ります。城作りの一方で、仙台城の真下を流れる広瀬川をはさんだ対岸の地に城下町を作り、インフラ整備を始めます。仙台城と城下を結ぶ橋を架け、南北方向に真っ直ぐ続く奥州街道と、仙台城から東へ向かう大通街を作ります。この二つの道路を基本軸として、武家屋敷、足軽屋敷を配置し、そして町民たちの住む町などを基盤の目状に整備しました。城下町の建設は元和年間(1615~1624)に一段落したようです。

一方で、領民の暮らしを豊かにそして安定させるための取り組みも行います。米の取量を上げるために始めたのが新田開発。湿地や荒地を水田にするためには河川整備も必要。家来の川村孫兵衛に命じて北上川の流れを変える工事も行いました。また、建築資材などを仙台北下へ運ぶための運河(のちの貞山堀)を作りました。

町づくりを手掛けながら、1607年(慶長12)には**大崎八幡宮(B)**、**陸奥国分寺薬師堂(C)**が、1609年(慶長14)には**瑞巖寺(D)**を完成させます。仙台城は築城開始から10年目に大広間が完成しました。

領民や下級家臣たちは、築城、町づくり、各寺社建築、そして新田開発などに総動員されました。領民たちにとって負担は少なくなかったものの仙台城築城や城下普請のために、1日7合半の米を支給していたという記録が残っています。当時の人は1日5合を食べていたというのでそれを上回る支給量だったということになります。

城作り、町づくり…すべてに多額の経費が投入されました。

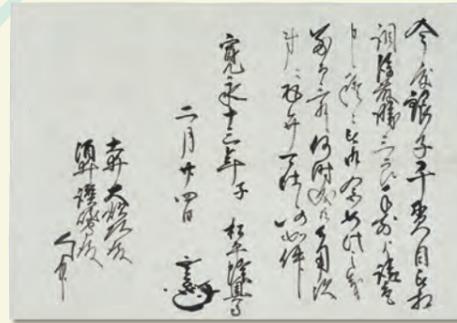
## 徳川幕府からの命令で江戸はもとより各地で普請を行う

**Q** さまざまなことを手掛けているようですが、財政的には大丈夫だったのでしょうか？ 領地からの収入で賄えたのですか？

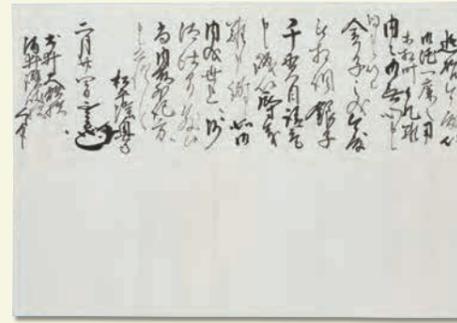
政宗は仙台藩の基盤整備に力を入れる一方で、徳川家からのさまざまな命令に応じて忙しい日々を送ります。

1614年(慶長19)、娘の五郎八姫が嫁いだ家康六男の松平忠輝が城主となった**越後高田城(B)**の普請を命じられ、政宗は越後高田(現在の新潟県上越市)に赴いて指揮をとります。また、1620年(元和6)の江戸城修復に際しては大手門の普請を担当します。その後も江戸城の石垣普請や江戸の堀普請などをたびたび命じられました。

政宗は徳川家康に重用されていましたが、家康亡き後も二代将軍秀忠が上洛する時には、先陣を切って上洛するよう命じられていました。他の有力大名より信頼されていた証ですが、一人で行くわけではなく数百人以上の家臣を引き連れて滞在するのですから、経費がかさみます。



伊達政宗書状 土井大炊頭利勝・酒井謙岐守忠勝宛  
寛永13年2月24日 仙台市博物館蔵  
金を貸してもらったことに対する老中への礼状



土井大炊頭利勝・酒井謙岐守忠勝宛銀子借用状  
寛永13年2月24日 仙台市博物館蔵  
政宗が亡くなる3ヵ月前に書いた幕府への借用書



奥州仙台城絵図  
正保2年 仙台市博物館蔵

大きく蛇行する広瀬川、碁盤の目状に整備された町割りが見える絵図。政宗が没して約10年後に描かれたもの

こうしたことから仙台藩の財務状況は赤字でした。京都や大坂の商人に借金を重ね、徳川幕府にも借金したりしています。政宗が亡くなる年に書いた徳川幕府に対する借用書とその礼状が残っています。仙台藩の基盤整備と徳川幕府の命による普請に明け暮れて政宗は70歳で亡くなりましたが、多額の借金はそのまま次の藩主に引き継がれることになります。2代藩主忠宗は瑞鳳殿(政宗霊廟)や東照宮造営でさらに費用を使ってしまう。3代綱宗は21歳で隠居させられました。さらに2歳で4代藩主となった綱村は寺社の建築に力を入れるなど、浪費も激しく仙台藩の財政状況はいっそう逼迫します。

ようやく赤字体質から脱却できたのは5代藩主吉村(2代藩主忠宗の孫)の時。綱村の養子だった吉村は質素節約につとめ、財政改革にも乗り出して立て直しの図ろうとしますが、莫大な借金はそんなことだけで返済できるものではありません。

その借金を一気に返せるできごとがありました。西日本が凶作に見舞われた年、東北地方は平年作でした。仙台藩の米は20万石から30万石に増加して米不足だった江戸へと送られ、しかも価格は例年の倍近くで取引されました。この凶作は2年続き仙台藩は米を江戸に送り続け、おかげで借金は一気に返済できたのです。仙台藩にとっては幸運なことでした。

こうして、江戸時代後期は経済的に安定し、政宗が礎となった伊達文化は花開きました。

## 借金を抱えながらもリストラせずに次々公共事業を手がける

**Q** 仙台藩の安定のために駆け抜けた後半生だったわけですが、仙台経済同友会にメッセージがありましたらお聞かせください。

政宗の優れたところはたくさんありますが、政治家として公共事業投資の大切さも分かっていたと思うのです。借金しながらもインフラ整備は地域の安定化と活性化、そして技術の進歩のためにも続けなければならないと考えていたと考えています。

さらに、年貢を過酷に取り立てることもなかったために、領内は安定していきます。仙台藩には新田開発の際は藩に厳密に届けなくてもよいという暗黙の了解がありました。つまり、隠し田を認めていたことになり。江戸時代、過酷な年貢米の取り立てで凶作の時に百姓一揆が起こり、そのために幕府の命令で藩が取り潰しになってしまったということもありました。人心の安定こそが藩の安定につながっていくことが分かっていたのでしょうか。

政宗はリストラもしませんでした。一時120万石もあったのに秀吉の奥州仕置などにより減封されて、最終的には半分62万石になります。しかし、家臣たちを減らすことはなかったのです。むしろ、新たに召し抱えることもあったほど。戦国時代が終わり仕えていた主君が滅亡したりして有能な人材が職を探していた時代です。普請に優れた工匠や、職人、絵師など多彩な人材も仙台藩に引き入れます。

リストラで人材が枯渇しないようにしながら、さらに能力がある人を登用する…人材の大切さを分かっていたといえるでしょう。

こうしてみると、未来を見据え、人を大切にしていた政宗の政治家、経営者としての手腕に感心させられます。政宗の生き方は現代の経営者の皆さんにも参考となるのではないのでしょうか？

**仙台藩と伊達政宗についてもっと知りたい方におすすめ**

『仙台市史』通史編3 近世1  
仙台市史編さん委員会編集  
仙台市発行

『城下町仙台ポケットガイド』  
仙台市博物館編集・発行

『せんだい歴史の窓』  
菅野正道著  
河北新報出版センター発行

普請に次ぐ普請の後半生		
西暦	年齢	主な出来事
1567年	1	米沢城で生まれる
1581年	15	初陣となる相馬氏との戦いに出る
1584年	18	父輝宗が隠居し、伊達家当主となる
1585年	19	蘆名・佐竹連合軍と戦って引き分ける
1589年	23	蘆名氏に大勝する
1593年	27	秀吉の命で朝鮮出兵する
1598年	32	豊臣秀吉死去
1600年	34	上杉軍と戦う 仙台城を築き始める <b>A</b>
1601年	35	建設途中の仙台城に移り、仙台北下の屋敷割を行う
1603年	37	徳川家康が江戸幕府を開く
1607年	41	大崎八幡宮、陸奥国分寺が完成 <b>B</b> <b>C</b>
1609年	43	瑞巖寺が完成 <b>D</b>
1610年	44	仙台城大広間が完成
1611年	45	江戸城西丸修復工事を幕府から命じられる
1612年	46	京都洞御所の普請を幕府から命じられる
1613年	47	支倉常長をローマに派遣
1614年	48	越後高田城を幕府から命じられ普請に赴く <b>E</b>
1615年	49	大坂夏の陣で家康に従って戦う
1616年	50	この頃北上川と石巻港を整備 徳川家康死去
1620年	54	江戸城大手門の普請を幕府から命じられる
1627年	61	若林城の普請が始まる
1628年	62	江戸城内各所の普請を幕府から命じられる 若林城に移る
1629年	63	この頃四ツ谷用水の普請が完成
1636年	70	江戸で死去

# チャレンジを続けるから生き残る 大改革で進化を続ける 伊達家の御用酒蔵

仙台勝山館  
代表取締役社長 伊澤 泰平氏



Q 「勝山酒造」は江戸時代創業と伺いましたが。

A 創業は元禄年間、安政4年(1857)に上杉山通角の土地を拝領して現在に至ります。仙台藩の御用酒蔵で残っているのは当蔵だけになりました。蔵の向かいにある勝山館は、明治・大正・昭和の時代を通して仙台の迎賓館として、皇族方がお泊りになったり地元の芸術家が集まるサロンのような役割を果たしていたと聞いております。

Q 文化を支える一面もあったんですね。

A お酒には美味しい料理と、雰囲気の良い場所が必要になりますから。酒と料理と文化の香りのする空間は、みんなつながっていたのでしょうか。伊達政宗公も料理が趣味で、自身の手書きメニューも残っています。仙台城には醸造蔵もあったそうで、その跡が博物館の裏手に残っていますよ。

Q 現在、伊澤さんが力をいれて取り組んでいらっしゃるのはいかがでしょうか。

A 300年以上の歴史がある地元企業ですが、時代変化が激しいなかで、どうやって次の代に家業を事業として引き継いでいくか、ということを常々考えています。

とくに日本酒の業界は厳しい状況で、一時は全国に5000蔵あったのが今実際にお酒を造っているのは800蔵ぐらい、それも今後は半分ぐらいに淘汰されると思います。

その中で、先代から引き継いできたDNAを生かしながら、中長期的な戦略を立てていかなければなりません。老舗というのは、時代に応じてドラステックなイノベーションを行ってきたからこそ生き残って、老舗と呼ばれているのだと思います。

父や兄弟を見ているとみんな新しもの好きで、チャレンジングなことをいろいろやっています。

Q 伊達政宗も、時代を先取りする進取の気性があったと言われていたのですが。

A それは絶対条件だと思います。だからこそ生き残るので、保守的のんびりしている老舗はないです。以前はボーリング場やスケート場もやっていました。高度成長で住宅需要が伸びたころは、団地の造成もやっていました。



Q 江戸時代からお酒一筋というイメージですが、かつてそうではないのですか。

A お酒はもちろん核になる事業ですが、酒造業では先を見通して10年前に思い切った大改革を断行しました。

工場を移転して大量生産型のお酒から小規模で作る高級酒に特化したのです。当時売り上げの7割を占めていた本醸造酒を辞め、ラベルやボトルのデザインを統一し、純米、純米吟醸、純米大吟醸の4種だけにしぼりました。売り上げは当然落ちますよね。最初の2年は赤字覚悟でした。でも、本当に余力がなくなってからは改革はできません。お酒単体の企業では難しかったかもしれませんが、ファミリー企業なので、他の事業で赤字をカバーして進めることができました。おかげさまで、今では新たな勝山ブランドを確立して、順調に成長しています。

Q 今までの日本酒のイメージとはちがう、スタイリッシュなボトルですね。

A お酒って、覚えていないのですよ。「美味しかったけれどどういう名前だったかな」みたいに。それで私は一貫性にこだわったのです。一番安いお酒にも、茶瓶のリサイクルなら40円で済むのに、より高価なオリジナルの新しい瓶を採用しました。新生勝山のブランドを認知していただくために重要なことだと考えたのです。当時4合瓶で10,000円の日本酒は業界初でした。今では、他の蔵元でも1万、2万円のお酒が珍しくなくなりました。先陣を切って業界を引っ張ってきたという自負もあります。

Q 今後やっていきたいことはどんなことですか？

A 時代はこれまで「美味しいもの」を追求してきましたが、これからは健康にフォーカスした食の提案が重要だと思います。今取り組んでいるのは、さまざまな機能が認められたMCTオイル(中鎖脂肪酸油)の販売で、発売以来大きな反響をいただいています。健康は個人の幸せとともに、増大する医療費を抑制する社会的な意味も大きいと思います。

Q 最後に、仙台経済同友会に参加されたきっかけと、入って思っていることなどをお聞かせください。

A 大学の先輩に電話一本で、「入れ」と言われまして、それも、幹事で。32歳で社長になったので、どこへ行っても最年少の若輩者でしたから、仙台経済同友会の毎回の例会は貴重な勉強の場でした。メンバーには上場企業の社長なども多いので、地元の中小企業には敷居が高い感があったのですが、皆さんと懇親を深めることで、得ることは本当に多いです。

Q ありがとうございます。

## 新入会・交替会員紹介

会員総数 316名 (2017年11月30日時点)

### 入会 (2名)



会員  
渡辺 保様  
農林中央金庫  
東北営業統括部長



会員  
太田 貴子様  
株式会社 大武・ルート工業  
常務取締役

### 交替 (2名)



会員  
木津川 直樹様  
株式会社 NTTファンリティーズ  
東北支店長



会員  
長谷 昌武様  
株式会社 七十七カード  
取締役社長

## 年末年始に行われるイベント、催事情報



グルメ  
ショッピング  
2017  
12月29日(金)



しづがわわんおすばでまつりふっこういち  
志津川湾おすばでまつり福興市

おすばでとは、「酒の肴」「おつまみ」を意味する地元の言葉。新鮮な海産物や農産物を格安で販売する、毎年恒例の歳末市。マダコ、アワビ、サケ、イクラ、ホタテほか、蒲鉾や餅などの正月用の食材も多彩にそろそろ。

- お問い合わせ / TEL.090-7077-2550 (福興市実行委員会)
- 会場 / 志津川仮設魚市場特設会場 ○住所: 南三陸町志津川旭ヶ浦 8
- アクセス / 気仙沼線 BRT 志津川駅・ベイサイドアリーナ駅から徒歩 20 分  
・三陸道南三陸海岸 IC から 7 分
- 駐車場 / 有り 400 台



ショッピング  
2018  
1月2日(火)



せんだいはつり  
仙台初売り

商店街を中心に行われる仙台初売りは、福袋やお茶箱の景品の豪華さでも知られている。伝統ある商習慣のため公正取引委員会からも旧仙台藩地域に限り特例として認められている、地域に根差した行事としての側面も。

- お問い合わせ / 022-265-8181 (仙台商工会議所)
- 会場 / 中心商店街はじめ市内全域



まつり・伝統  
2018  
1月2日(火) 10:00~11:30頃



やじろうこけしはつびき  
弥治郎こけし初挽き

職人が新年最初に制作したこけしを技術向上と無病息災を願い神社へ奉納する行事。現代では弥治郎こけし村にて行われ、奉納行事と共に、地域の子供たちによる神輿かつぎなども行われ、訪れる人々を楽しませている。

- お問い合わせ / 0224-26-3993 (弥治郎こけし村)
- 会場 / 弥治郎こけし村 ○住所: 白石市福岡八宮字弥治郎北 72-1
- アクセス / JR 白石蔵王駅より車で約 20 分  
・東北道白石 IC より約 15 分
- 駐車場 / 有り 30 台



まつり・伝統  
2018  
1月14日(日)



まつたきまつり  
松焚祭

大崎八幡神社で行われる地元で「どんと祭」と呼ばれる、正月送りの行事。正月飾りを焚き上げて、無病息災、家内安全を祈る。約 300 年の歴史があり全国的にも知られる、御神火を自指して参拝する裸参りも見どころ。仙台市の無形民俗文化財指定。

- お問い合わせ / 022-234-3606 (大崎八幡宮)
- 会場 / 大崎八幡宮 ○住所: 仙台市青葉区八幡 4-6-1  
※5 時以降、交通規制あり

# 政宗の命を受け太平洋へ出航



写真提供:宮城県観光課

今から約400年前、伊達政宗の命により  
スペインとの貿易交渉のために  
太平洋を渡った支倉常長一行。  
その慶長遣欧使節団が乗り込んだ大型帆船が  
サン・ファン・パウテイスタ号です。  
現在は、その復元船が石巻の  
サンファン館に係留されており、  
毎年恒例の「サン・ファン・イルミネーションツリー」の  
期間中は、雄大な大海原を背景に光り輝く  
帆船の姿を眺めることができます。

## さん・ふぁん・いるみねーしょんツリー サン・ファン・イルミネーションツリー

[開催] 2017年12月8日(金)～2018年1月8日(月祝)

### DATA

TEL. 0225-24-2210 (サン・ファン館) 石巻市渡波字大森 30-2  
○アクセス / ・JR渡波駅下車、徒歩 25分 ○駐車場 / 有り 300台  
・三陸道河南 ICから 30分

### 次号の特集のご案内

仙台の礎を築いた伊達政宗。その際立つ個性は、今も多くの人を魅了してやみません。次号では、人間・政宗の細やかな家族愛などにスポットを当ててご紹介する予定です。年末年始に向けて心したい政宗の言葉をご紹介して締めくくりたいと思います。「物事、小事より大事は発するものなり。油断すべからず」。  
2018年が皆様にとっていっそう輝かしい年になりますように。

仙台経済同友会

## BIMONTHLY REPORT

2017年12月号 No.387 平成29年12月14日発行

○発行人 / 大山健太郎 一力雅彦 ○編集人 / 川嶋輝彦 ○発行所 / 仙台経済同友会  
〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-6-1 仙台第一生命タワービルディング12階  
TEL / 022-223-8555 FAX / 022-262-2650 URL / <http://sendai-doyukai.org>  
製作・印刷 / 今野印刷株式会社